１．個人データ

職名： 教授　　氏名： 高橋　秀実　　学位： 修士（学術）　e-mail： taka@kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

専門分野　　：　国際関係論、 米国外交安全保障政策

教育・研究テーマ:「２１世紀国際政治経済の潮流」「米共和党政権の外交安全保障戦略と新保守主義」

冷戦後、戦後の東西対立の陰に隠れていたナショナリズムが噴出し、民族対立から地域紛争が多発し、国を追われて流浪する難民も激増している。中東・旧ユーゴ・チェチェンと民族紛争はテロと報復戦争の泥沼化を招いた。S.P.Huntington はその著“The Clash of Civilizations”で、冷戦後の世界では東西イデオロギー対立にかわり民族・宗教など文化的断層を基盤とする文明の衝突が新たな国際紛争の根本要因になると主張し、冷戦後の世界像を衝撃的に描いている。
一方で、経済活動のボーダレス化、情報技術の飛躍的進展により、国家間の相互依存関係が緊密化し、市場が世界的に一体化しつつある。米国標準に基づくグローバリゼーションの潮流である。
国際関係は西欧近代の Nation State を絶対的主体とし、大国の権力関係からパワーポリティクスとして分析されてきた。しかし冷戦後、紛争の性格も変化し、国家以外に様々な主体の利害が複雑にからみ、経済的要因に加えて社会的・文化的要因が政治的・軍事的変動を引き起こす側面が強まりつつある。
他方、ＥＵの地域統合は通貨統合・加盟国拡大に及び、主権国家の機能は大きく変化しつつある。
平和と人権が国境をこえた普遍的理念として共通認識が形成されつつあるのもまた事実である。
大きな時代の転換期にあたる現在、２１世紀の国際社会を考察する際、グローバリズム・リージョナリズム・ナショナリズムというパラダイムを軸とし、政治的・軍事的要因のみならず、経済的要因さらには社会的・文化的要因の探求が不可欠と思われる。
その意味で狭義の国際政治学のみならず、歴史学・政治学・経済学・社会学・社会思想・比較文化論・地域研究等の成果をも踏まえた領域横断的・学際的な社会科学としての国際関係論が求められている。
米国ブッシュ政権の対外政策・安全保障政策とネオコン（新保守主義）の関係、イラク戦争後の米欧関係の変化など、現代国際政治経済の諸テーマを、冷戦終結から２１世紀へのグローバルな潮流・国際政治構造の変容という視点において考察すると共に、こうしたテーマを高専の政治経済教育においていかに掘り下げうるのか、政治経済教育の意義・可能性を探求する。

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・
・
・
・

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・
・
・

（３）キーワード

・国際関係論、21 世紀の世界潮流